

天白区・平針地区の里山

7月29日付の中日新聞に「天白区・平針地区の開発論争」という記事が、里山の命「ほっ」という大きな見出しをつけて掲載された。ヘリから撮ったカラー写真により、平針住宅の南西に広がる緑がじつに印象的だった。

相生山緑地から平針に向かい、なんとか里山にたどりついた。住宅地に隣接する5ヘクタールの里山だが、土地を取得した業者が宅地造成などで開発するという。



業者は7月、河村市長に「COP10を控え、里山として活用するなら協力するので、市が買い取ってほしい」と申し出た。河村市長も保全に向け、検討を始めたが、購入には約20億円が必要とみられる(朝日8月8日夕刊)。財政難のおりに、新たな財政支出は困難が予想されるが、里山保全の動きを注目したい。近くのマンションには、「里山を守ろう」といった旗が掲げられていた。

そのマンションからすこし行くと、島田湿地帯(自然生態園)にたどりついた。地図に「島田緑地」と記載されていたところだ。この湿地帯



では、いろいろな種類のトンボが見られるとのことで、案内板に説明が書かれていた。ちょうど自然生態園に鍵をかけに来た人に聞くと、ここは開発されないが、先の里山が宅地造成されると湿地にも影響するのでないかと心配していた。生物多様性とともに、里山保全の意義を考えさせられた里山歩きであった。

(2009年8月31日 記)